コロナ・パンデミックからの回復と
レジリエンス確保に向けた
東京メトロの戦略と取組み

小坂　彰洋

常務取締役
東京地下鉄株式会社

2021年12月9日

会社概要

従業員数

東京メトロ単体:　9,881人
東京メトログループ（計14社）: 11,818人

株主

政府（53.4%）
東京都（46.6%）

売上

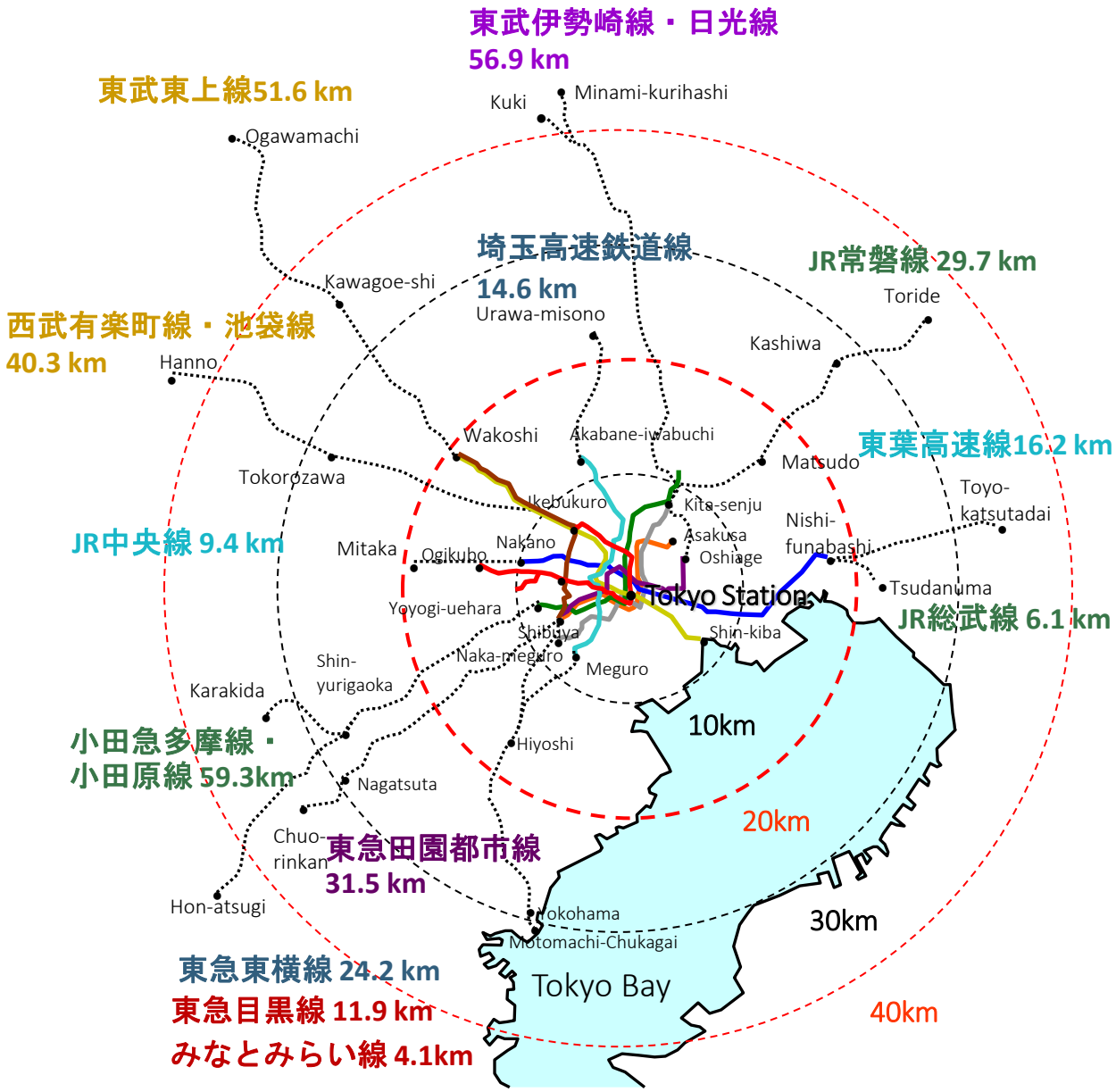
（FY2019）
東京メトロ単体:3,974 億円（約36億USドル*）
東京メトログループ（計14社）: 4,331億円(約39 億USドル*)

(FY2020)
東京メトロ単体: 2,696億円（約24億USドル*）
東京メトログループ（計14社）: 2,957億円（約26億USドル*）

*1 USドル＝110円

注記のない項目は2021年3月末現在

直通運転



路線数		9
直通運転		7路線で8事業者と実施
合計	東京メトロ	195.0km
	直通運転	355.8km
	合計	550.8km
駅数		180
車両数		2,750
輸送人員数 （1日平均）		(2019年度)755万人 (2020年度)498万人
最短運行間隔		1分50秒 （丸ノ内線）

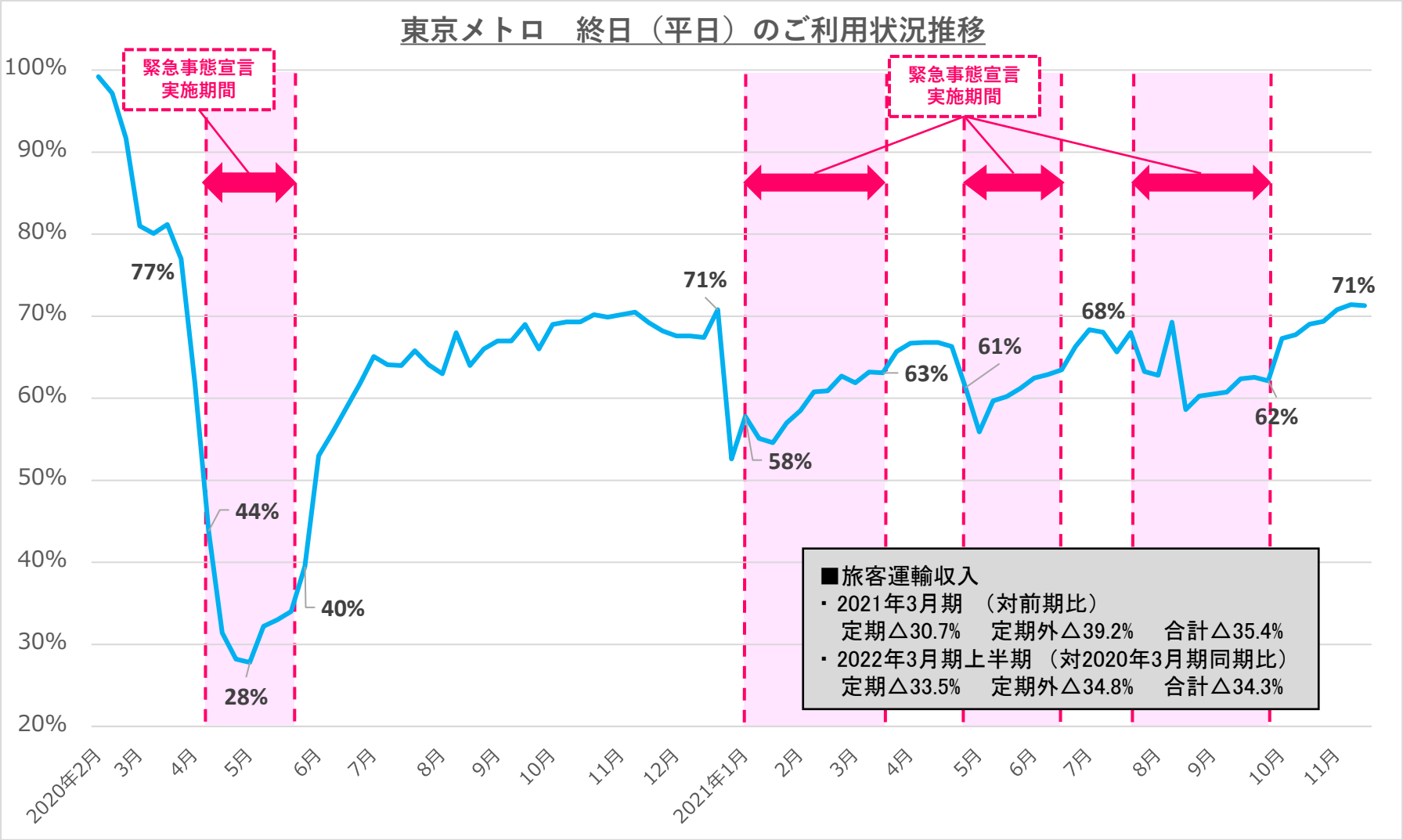
凡例

銀座線	14.2km
丸ノ内線	27.4km
日比谷線	20.3km
東西線	30.8km
千代田線	24.0km
有楽町線	28.3km
半蔵門線	16.8km
南北線	21.3km
副都心線	11.9km
直通運転	

注記のない項目は2021年3月末現在

ご利用状況推移

2020年4月の1回目の緊急事態宣言では、2019年度比28%まで落ち込んだものの、その後最大約71%まで回復、2回目以降の緊急事態宣言では落ち込みが小さい傾向にあります。



※東京メトロ全駅の自動改札機出場枚数：コロナ前2019年同月比

ポストコロナに向けた東京メトロの取組方針

ポストコロナにおける社会・行動変容を見据え、「選ばれる会社」となるため、「安心な空間」「パーソナライズド」「デジタル」の3つのキーワードに基づき、これまでの取組みを着実に進めるとともに、新たな取組みにも積極的に挑戦していきます。

: 3つのキーワード

: 2021年の施策

安心な空間

- 自然災害対策
- クリーンな環境
- オフピーク通勤
- シェアオフィス事業

パーソナライズド

- 大都市型MaaS “my! Tokyo MaaS”
- “Tokyo Metro my! APP”への機能追加

デジタル

- 列車混雑計測システム
- 車両情報監視・分析システム（TIMA）

クリーンな環境の保持（消毒）

東京メトロ

東京メトロでは、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、消毒液を用いた定期的な清掃に加え、車両内の抗ウイルス・消毒処置を実施しました。
お客様により安心して地下鉄をご利用いただけるよう、今後も感染対策に向けた取組みを実施していきます。

アルコール消毒液を用いた清掃
（駅構内券売機）

車両内の抗ウイルス・抗菌処置

モバイルPASMOを使ったサービス

モバイルPASMO（携帯端末へICカード乗車券機能を搭載）により、スマートフォンひとつで乗車、チャージ等が可能です。
また、メトロポイントクラブ（メトポ）への登録により、混雑を避ける新しい生活様式に合わせ、比較的空いている時間帯や曜日でのご利用や乗車回数に応じたポイントを貯めることも可能です。
さらに、2022年3月には、新たに実質乗り放題サービスのトライアルを実施します。

メトロに乗って、ポイント貯めよう。
メトポ
メトロポイントクラブ

➢ ポイントサービス

メトポに登録されたPASMOを使ってご利用いただくと、乗車時間帯や曜日、回数などに応じてポイントが貯まるサービス。
【例】1か月のうち平日8日（16回）、休日2日（4回）、合計10日（20回）のご利用の場合、初乗り運賃で換算すると約2%程度のポイント還元。

デイタイムポイント	ホリデーポイント	ボーナスポイント
平日10:30～16:30 5 ポイント/日	休日すべての時間 7 ポイント/日	月10回ご乗車 10 ポイント/月 ※1か月に10回～19回：10P付与 20回～29回：20P付与

1ポイント≒1円≒1米セント

＋

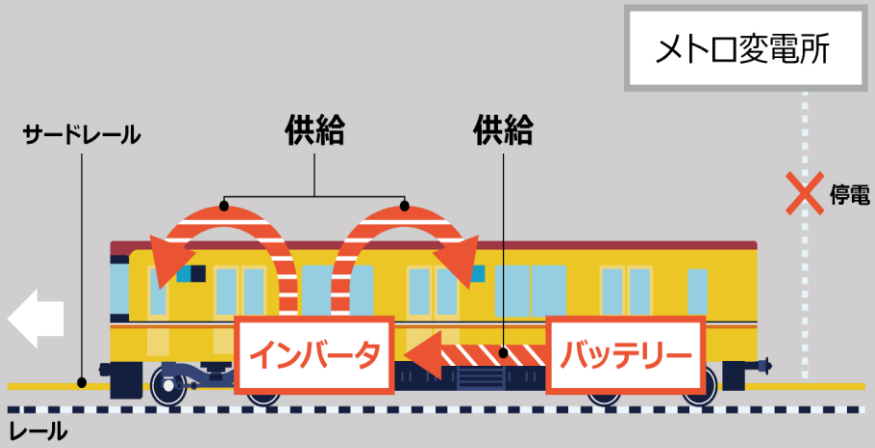
➢ 休日メトロ放題

登録料月額2,000円で1か月の土日・祝日が実質乗り放題サービスを2022年3月にトライアル予定

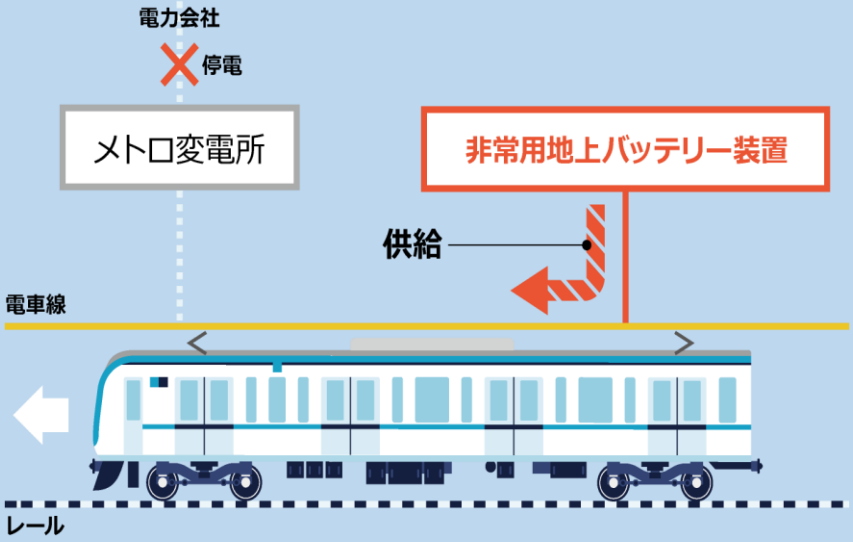
自然災害対策（停電）

大規模停電対策として、停電で列車が駅間に停車した場合でも、最寄駅まで走行が可能となるよう、大規模バッテリーの車両への搭載や長大橋りょうへの設置を進めています。

車両に搭載する非常用走行バッテリー



地上に設置する非常用走行バッテリー（長大橋りょうなど）



水害対策

東京メトロ

東京メトロでは、過去の水害や浸水被害をもとに浸水対策の整備を行ってきました。台風や大雨による浸水に備えて、浸水のおそれのある駅の出入口に関しては、歩道より高い位置の設置や、止水板や出入口全体を閉鎖することができる防水扉を設置することで浸水を防止するほか、路上にある換気口には感知器を備えた浸水防止機を整備しています。

過去の水害事例:
台風11号（1993年8月27日）

赤坂見附駅

溜池山王駅建設のために銀座線虎ノ門—赤坂見附駅区間で実施されていた大規模改良工事現場から雨水が流れ込んだ。

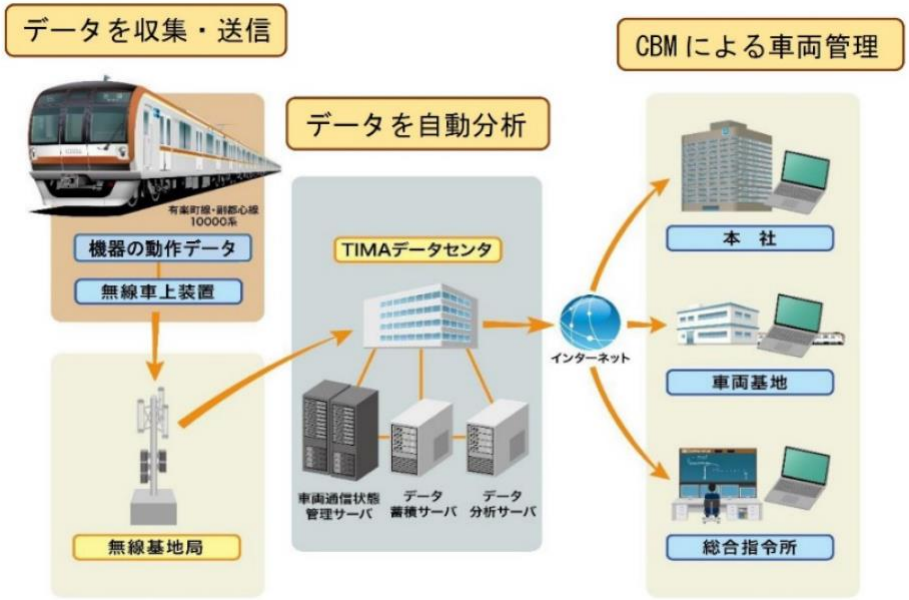
駅出入口の浸水対策

防水扉

車両情報監視・分析システム（TIMA）

東京メトロ

東京メトロでは、2018年度より、新型車両に、「車両情報監視・分析システム」を導入しています。
走行中の車両機器の動作データを無線で伝送し、総合指令所や車両基地から遠隔で確認可能なシステムであり、故障発生時の迅速な対応とともに、データの蓄積・分析により故障の予兆検知、機器の寿命診断や検査の深度化・効率化につながっています。



故障予兆検知システム

対象車両機器

- ブレーキ装置
- 電動空気圧縮機

東京メトロ

Copyright ©Tokyo Metro Co.,Ltd. All rights reserved.